

## 世界の人びとのための J I C A 基金活用事業・業務完了報告書

1. 業務の概要：	
(1) 事業名	日本の NGO の安全管理者向け研修の実施環境整備
(2) 実施団体名	NGO 安全管理イニシアティブ
(3) 実施期間	2017 年 5 月 1 日-12 月 31 日
(4) 実施国	日本国内
(5) 活動地域	全国
(6) 活動概要	<p>①活動の背景：</p> <p>2010 年代以降、各地での紛争の長期化に加えて、いわゆる「イスラム国」の活動とそれに呼応した各地の勢力の活動により、人道支援の事業地のみならず、従来の開発支援の事業地においても、より高いレベルの安全管理が必要とされている。一方で、このような状況下であるが故に、人間の安全保障の観点から、市民社会組織による草の根レベルでの住民のエンパワメントのニーズはより高まっており、人道支援、また SDGs 達成のための開発支援実施のためには、安全管理の能力強化が欠かせない。しかし、そのための研修は、国連や欧米の NGO では広く行われているものの、通常高額である他、UNHCR 提供の無償のものも機会が限られ、従来日本の NGO には機会が限定されていた。特に地方の団体の場合、例え東京で開催されたも、移動交通費の制約で参加が困難であった。さらに、英語力が十分ではない場合、これらの英語で行われる研修には、まったく参加が出来ない状況であった。</p> <p>②活動の目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安全管理者向け研修のトレーナー研修が開催され、日本語で研修実施可能なトレーナー 5-10 名が必要なスキルと経験を身につける。</li> <li>2. 安全管理者向け研修の研修素材のローカライゼーション（翻訳、日本の状況に合わせた内容調整や事例追加）が完成する。</li> <li>3. 地方の団体からの参加者を招聘した安全管理者向け研修が開催され、首都圏以外の NGO にも、同研修の必要性の理解が広がる。</li> </ol>

## 2. 業務実施結果：

### (1) 実施した内容

#### 【実施内容①】安全管理者向け研修のトレーナー研修の開催（2回）

8月13-17日に、UNHCR Regional Centre for Emergency Preparedness (eCentre) との共催により都内でトレーナー研修を開催し、NGO、日本赤十字社、JICA から計16名が参加した。講師はeCentreの研修で常時講師を務めている、経験豊富な安全管理研修講師2名と、eCentre コーディネーターが担当した。前半の2.5日間は、実施内容③の安全管理者向け研修に一般参加者と共に参加し、自分が実施する立場を想定しながら一通り研修を受講し、後半の2.5日で成人教育に関する理論、ファシリテーションスキル等を学ぶと共に、参加者がそれぞれ2回のセッションを行い、講師と他の参加者からコメントをもらうことで、実地で安全管理研修を行う経験を積んだ。

その後12月までに、それぞれがJaNISS主催のワークショップ、団体内でのワークショップ等で実践経験を積んだ後、12月15日にフォローアップ研修を行い、都合で参加できなかったトレーナー候補を除く10名が参加した。8月にカバーしきれっていなかった人道原則等に関する内容を学ぶと共に、自らが実施したワークショップを2名が再現して行ない、構成、用語、プレゼン方法、適切な事例等に関し、どのようにすれば日本のNGO向けにより効果的なワークショップとすることができるか、参加者間で議論を行った。

#### 【実施内容②】安全管理者向け研修の研修素材のローカライゼーション

実施内容①の研修の後、受講したトレーナー候補が分担してプレゼン資料の翻訳を行うと共に、キーワードの日本語訳について検討を行った。またワークショップ時配布用資料については、UNHCRの協力を得て外部の業者に委託し、検討を行ったキーワードリストに基づいて、日本語への翻訳を完成させた。

#### 【実施内容③】地方の団体からの参加者を招聘した安全管理者向け研修の開催（2回）

8月13-15日に、UNHCR eCentre との共催により都内で安全管理研修を開催し、合計27名（上記トレーナー研修参加者を含む）が参加した。うち、地方からの参加者は5名であった。eCentreが通常行うSecurity Risk Managementの内容にて、安全リスク分析、安全計画策定、緊急対応計画とその演習等を行った。

また12月12-14日には、同様にeCentreとの共催により安全管理研修を開催した。安全管理に関する多様な研修を提供するため、8月とは一部異なった内容にて構成し、現場での安全管理とリスク分析演習を統合した内容にて実施した。28名の参加があり、うち5名が地方からの参加、また5名が海外事務所から（うち2団体は本部が地方）の参加であった。

**(2) 実施成果：**

**【実施内容①】安全管理者向け研修のトレーナー研修の開催（2回）**

8月に実施のトレーナー研修及び12月のフォローアップ研修を経て、16名が安全管理者向け研修トレーナー候補となった。その後も、オンラインまた必要に応じて会合を開催した上で、日本語で日本のNGOの参加者にこの研修を提供するために、よりよい方法を検討し、改善を重ねている。またJaNISS主催の研修、各団体内での研修にて、トレーナーとしての経験を重ねている。

**【実施内容②】安全管理者向け研修の研修素材のローカライゼーション**

安全管理者向け研修（Security Risk Management Workshop）のプレゼン資料及び配布用資料（78ページ）について、日本語訳が完成した。またキーワードについてもリスト化し、従来人道・開発支援業界でも定訳が定まっていなかった用語について、今後の定訳となり得る訳語を確定させた。

（ローカライゼーションを行った研修素材については、参考資料のパワーポイント資料及び「安全管理研修ワークブック」を参照。）

**【実施内容③】地方の団体からの参加者を招聘した安全管理者向け研修の開催（2回）**

2度の研修にて、合計55名（トレーナー研修を兼ねた参加者を除くと39名）が参加し、地方のNGOからは8月に5名、12月に7名、合計でのべ12名の参加があった。従来はeCentreの研修はタイでのみ実施され、参加枠も限られていたが、今回同内容の研修が2回東京で開催されたことにより、15団体以上から初めての参加があり、その他数団体が数年ぶりの参加となった。またJICAからも1名の参加があった他、外務省、防衛省・自衛隊からもオブザーバー参加があったことで、多様な経験や視点から相互に学ぶ機会となった。2回の研修ともに、参加者は積極的にワークに参加し、事後の聞き取りによる満足度も非常に高かった。

（実施内容①、③の研修の詳細については、添付資料の「2017年8月安全管理研修報告」「2017年12月安全管理研修報告」を参照。）

### (3) 得られた教訓など：

#### 【実施内容①】安全管理者向け研修のトレーナー研修の開催（2回）

参加者数は当初計画の20名には達しなかったものの、各団体で事務局長、部長レベルのポジションに着かれている方、事件や事故に遭ったことも含めて現場で豊富な経験を持つ方、さらに JICA 安全管理部からの参加も含めて16名の参加者があった。これらの方々の熱心な学びと参加から、日本の NGO・開発機関としてこの研修の重要性を認識し、講師として広めていきたいと考える経験豊富な人材が、日本にも一定数あることが確認された。

#### 【実施内容②】安全管理者向け研修の研修素材のローカライゼーション

ローカライゼーションの作業過程で、従来各団体がそれぞれの理解や訳語を用いていたキーワードを整理したことで、安全管理に関し共通の言語での情報交換がより容易になったと言える。また、人道支援よりも開発支援に従事する団体が多い中で、主に人道支援向けの UNHCR のコンテンツを、どのように開発支援団体に適用できるかについても、専門家を交えて闊達に議論することができた。その議論は、アジア太平洋地域で開発支援団体や政府機関にも常時研修を行っている eCentre にも、逆に参考とすべきものとなった。

#### 【実施内容③】地方の団体からの参加者を招聘した安全管理者向け研修の開催（2回）

加者の満足度は、ワークショップの最中あるいは事後の聞き取りからも、明らかで、このような研修は今後も引き続き定期的に行ってもらいたい、今回日本で開催されて本当に有り難かった等の声が聞かれた。一方で、地方の NGO の参加については、当初想定の10名を上回るのべ12名の参加はあったものの、自己資金にて実施した地方の団体への事前説明や、ワークショップへの参加呼びかけの過程においても、3日間かけて東京で研修を受ける必要があると認識している団体は、限られていると感じられた。よって、導入的な半日から1日の研修を、参加しやすい形で各地域の NGO に対してまず行い、安全管理研修の有用性と必要性についてさらに周知していく活動が、今後求められるといえる。

### (4) 今後の活動・フォローアップの方針：

JaNISS として、JICA の NGO 等提案型プログラムのスキームにおいて、地方も含めた初級レベルの安全管理研修を行うプログラムの採択の内定を得ている。よって、本事業で得られた教訓に基づき、自主開催の研修も含めて、今後導入的な研修を2-3年かけて首都圏及び各地方で数回実施して行く予定である。それに際しては、本事業の2度の研修で育成されたトレーナー達が講師を務め、その経験を共有していく予定である。

またトレーナーのさらなる能力向上については、次年度以降も eCentre との共催で年1-2回のフォローアップ研修を行い、経験豊富な eCentre の講師からフィードバックを得ることで、さらに研修の質を上げていく予定である。

加えて、本事業で実施した、3-5日間の中級レベルの安全管理研修についても、eCentre との共催等により、今後も日本国内での開催を継続し、より深いレベルまで時間をかけて学びたいと考える日本の NGO のニーズに応えていく予定である。

### 3. その他(エピソード・感想・写真など)

#### (1) 活動中のエピソード・感想など

首都圏以外の地域に本部を置く NGO にとっては、中小規模の団体が多いことから、例え首都圏で様々な能力開発の機会が提供されても、団体で負担できる交通費や宿泊費が限られ、なかなか参加ができなかったのが実情である。本事業において、地方に拠点を置く団体からの安全管理研修への参加の可能性が広がったことで、のべ12名とはいえ積極的な参加があった。これら団体からの参加者は、ワークショップの内容や講師からの学びに留まらず、各地域から参加した他団体の安全管理の現状と課題についても相互に知ることができ、安全管理の面で、自団体が日本の NGO 全体から見てどのような位置にあり、どのような課題を抱えているのか学ぶ機会となった点で、大きな意義があったと自己評価している。

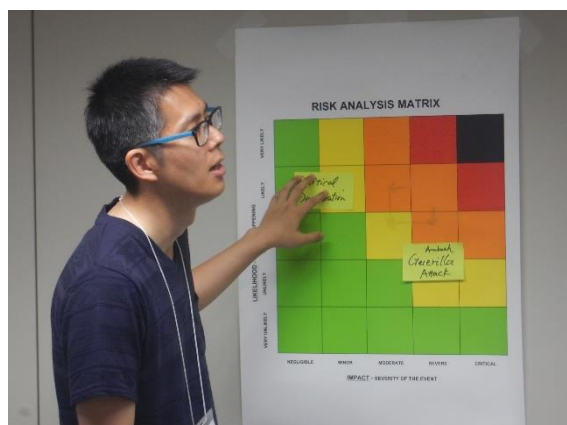
#### (2) 活動の写真



(8月安全管理研修の参加者と講師集合写真)



(8月研修の危機管理演習の様子)



(8月トレーナー研修にて。リスクマトリックスを用いた演習)



(8月トレーナー研修にて。プレゼンテーションに対して相互にアドバイス)



(12月の安全管理研修の参加者と講師集合写真)



(12月の研修での講師による講義の様子)



(12月の研修での全体での質疑応答)



(12月の研修でのチェックポイント演習)

その他の写真は、添付資料の「2017年8月安全管理研修報告」「2017年12月安全管理研修報告」に掲載。